
魔法少女まどか マギカ～たった一人の魔術師とたった一つの約束～

吉田佳樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女まどか マギカ
たった一人の魔術師とたった一つの約束

【Nコード】

N7304S

【作者名】

吉田佳樹

【あらすじ】

どこにでもいるごく平凡な少年「九瑠ユキ」は実は魔術師一家の末裔で、最後の後継者だった。そんな書往年がある時間軸で出会った一人の少女との、くもう誰も死なせないでくという約束を守るために、自ら地獄の底へと落ちていく

こんにちは、初めましての人は初めまして、吉田佳樹です。

このたび、まどかの小説を書きたいと思います。
初心者なので、文章が拙いと思いますが、皆さん楽しんでくださればうれしいです。

予断ですが、ZARDの「星のかがやきよ」って案外この作品に歌詞が合いませんか？最終回を見てなぜかそう感じました。

すべての始まり「もう誰も死なせない」(前書き)

皆さんこれからよろしく願いします^^

すべての始まり「もう誰も死なせない」

突然だが俺には、記憶がある、当たり前だが今言っている記憶とは、前世みたいなものだ、だが前世とは少し違う、俺は今、同じ時間をぐるぐる回っている。

そう、たったひとつの約束のために、自分を平凡だといい、誰かのためにがんばりたいといった。

小さな少女との約束を、時に皆さんは魔術を信じるだろうか？そんなものはない？あつたら見てみたい？

そうだよ、みんな信じるわけがない、だが、世界には多くの魔術結社が存在していた。そう、過去形だ。確か存在していたのだが、今は見る影もなく廃れてしまった。それは案外最近の事だったりする。といつても、大体60年ぐらい前だね、何で俺が、こんな話をするかって？それは、俺がその魔術師の末裔で最後の後継者だからだ。

これは、俺がたった一つの約束をかなえるために、一人同じ時間をループしているお話。

「その約束は、誰も死なせない」

何回目だったかな・・・？」「初めまして、九瑠ユキです」(前書き)

連続投稿！

何回目だったかな・・・？」「初めまして、九瑠ユキです」

前述のとおり（前話参照）俺は魔術師だ。だが普段は、普通の人間として生きている。魔術師だからって誰かと一戦交えたりするのが日常ではない。逆に言つとそんなのは非日常だ。一生のうちそんなことが一回あるかないか、それぐらいが普通である。

「やべえ、めっちゃ緊張する。」

絶賛緊張中のわけは、今日は転校初日だったりする。これも何回目だろうか？ 時期的には、暁美ほむらが転校して一週間ぐらいではなからうか？

「ではどうぞ」

担任の声が聞こえて教室に入る。

そこで第一にほむらと目が合う。あいつは、俺と一緒に時間移動ができるやつだ、だが目的は違う。

クラスは、かわいい、だとか、本当におとこか？とかざわついている

何回目だったかな？」「初めまして、九瑠ユキです。」

ワーと言う歓声と、拍手でクラスが一瞬にぎやかになる。

「では、九瑠君の席は、鹿目さんの隣で」

席に着くと隣から

「私は、鹿目まどか、よろしくね、九瑠君でいいのかな？」

「ああ、それでいいよ」

そして、もう一方の隣には

「暁美ほむらよ、よろしく」

「ああ、よろしく」

暁美ほむらがいたりする

ある種俺とほむらは運命共同体だったりする。

二人とも同じ少女から約束を託された人だからだ。

さつき目的は違つと違ったけれど、正確には託された願いが違つと違ったところだろうか。

その後、授業時間も終了し、放課後になる。

今日は、まどかとその友人のさやかに町を案内してもらえらしい。まあ、知っているからいいのだが、この世界でははじめて来たことになっているので素直に好意に甘えることにした。

休み時間には、クラスの質問攻めにあっていたり、したが、何とかその危機的状況を脱出して、今に至る。

「ねえねえ、九瑠君は、どんな音楽がすきななの？」

まどかの急な質問に

「えっと、ジャンルにこだわらず気に入ったものは何でも」

と実にあいまいな答えをしてしまった。

だが、まどかは

「ふうんそうなんだ」と納得してくれたようだ

とそのとき

周りの景色が歪み始めた

グニヤリと大きくゆがんだと思うと

「これは」

魔女特有の結界のような空間になっていた。

早い、早すぎる。

まさか、俺というイレギュラーによって、このセカイでの、魔女との遭遇が早まったのだろうか？

二人はテンぱっていて冷静ではなくなっていた。

おかしい、いつもは、ほむらがQBを追いかけて出会うはずなんだがそのイベントはもう終わっているのか？いや、それはないだろう、あったとしたら、素手のこの二人はマミとあっているはずだ。

ということやはりこのセカイは少し俺が知っているセカイとは違うようだ。

「ねえ、九瑠君、どうしたのそんな考え込んで」

震えた声でまどかが聞いてきた。

「ああ、この空間からの脱出方法はどうしたら良いかと」

「ずいぶんと冷静ね、まるでこんな現象に遭ったことがあるような」「鋭いな、いやはや、さすが、どのセカイでも魔法少女になる人だ

そのとき、ピヨンという擬音がつきそうな感じで、QBが俺達の前に現れた。

「ねえ、君たち、僕と契約して、魔法少女になってよ」

にこやかに、悪魔のように、淡々と、そういった。

何回目だったかな・・・？」「初めまして、九瑠ユキです」(後書き)

今回は戦闘！うまくいくか分からないけどがんばります。

アドバイス、ご感想、いただけたらうれしいです。

でも、あまりにも批判的だと作者はへこむので、もしアドバイスするならできるだけ丁寧な口調をお願いします。

初戦「大丈夫、みんな死なせないから」

「契約・・・？」

まどかは首をかしげている。

「そう、契約、願い事ひとつと引き換えに、君たちはこの空間にいる魔女と戦ってもらう」

「魔女？」

今度はさやかが首をかしげる

「この世の、邪念の塊だ」

うそだ、魔女とは、魔法少女の成れの果てだというのに。

「どちらにせよ、君たちは、この空間に誘われ狙われている」

QBの言葉に二人は抱き合い震えている。

「さあ、早く僕と契約を」

「それには及ばないわ」

そのとき別の方向から声がした

「暁美ほむら、また君か」

QBがうんざりするよつたいう

「よう、またあつたな」

俺が声をかけると

「ふん」

とそっけない返事が返ってきた。

そして、QBに向かって、魔弾のようなものを撃ち込み始めた。

「おい、やめろつて。」俺が止めよつとすると、ほむらはこちらに手を向け

「いくらあなたでも容赦はしないわ」

と俺に撃ち込んできた

「うわつと、」

何とかかわすと、さっきいた場所が焦げている

「本当に容赦がないな」

「ええ、さっきいったじゃない」

俺とほむらが話している隙に、QBはまどかの肩に乗っていた。

「チッ」舌打ちをするとほむらは手を下げた。

そのとき明らかにいやな気配を感じた

「くるぞ！」

そう叫ぶと同時に、前方から魔女の手下と思われるやつが飛んできた。

「こんなときに厄介な」

ほむらが苦虫をかんだような顔をした

「ここは俺に任せてもうよ」

臨戦態勢のほむらを手で制していった。

「お前の、宝石にこつたら困るんだろ？」

「だったら、ここは俺がやるっきゃないだろっ」

「だめだよ、何も持たずにそんな」

まどかが叫ぶが

「大丈夫、みんな死なせはしないから」

そういつと

「偉大なる四大元素、水の精、ウンディーネ、わが手に力を、（x
13y57）」

と唱えたした

すると、手下がいた位置に、いきなり圧縮水流が飛び出した。その一撃にて他の手下はたまらず消え去った。

「ふう、なんとかなったかな」

そういうと、くると体を後ろに振り向かせた

するとそこに見えたのは・・・

やはり驚愕の表情で、アワアワいつている二人だった。

初戦「大丈夫、みんな死なせないから」（後書き）

オリ主は、座標を言って魔術を発動します。

まあ、座標は、オリ主のみが分かるという設定です。

詳しくは今度、人物紹介で書こうと思います。

主人公設定

名前・・・九瑠ユキ、

見た目は巷で言う男の娘、ユキという女性的な名前も相成って、よくネタにされる。それゆえに、この名前をあまり気に入ってない。実際は、ユウキという名前にしたかったらしいが、親が誤って、ユキという名前で、役所に提出してしまったため、本名になった。違う時間軸のまどかとした約束を守るためにいくつもの時間をループしている。

身長・・・163

体重・・・50

魔術・・・

基本的には座標攻撃。属性は四大元素など多数。魔術は「偉大なる四大元素、の精」わが手に力を」で発動する。座標攻撃ゆえ、ほぼ命中するが、その座標から少しでもずれるとあたらないう欠点を持つ。

主人公設定（後書き）

随時更新していきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7304s/>

魔法少女まどか マギカ～たった一人の魔術師とたった一つの約束～

2011年10月7日14時31分発行